



四つ葉のクローバー

発行所
桐生厚生総合病院 中央検査部
責任者 吉田カツ江

理念 臨床検査の質的向上と信頼性の確保

2007年7月発行

検査部探検シリーズ 2

夜間・休日緊急検査

現場風景から

第12号は、救急診療で関わりが深い夜間・休日での検査部の「緊急検査」の様子をご紹介します。

中央検査部の緊急検査は、病院の救急診療体制の下に24時間体制で毎日稼働しています。

勤務体制は、夜間1名（宿直）、休日は午前2名と午後1名（日直）で行っています。

28名の臨床検査技師が輪番制であたっていて、必要に応じて応援体制も整えています。

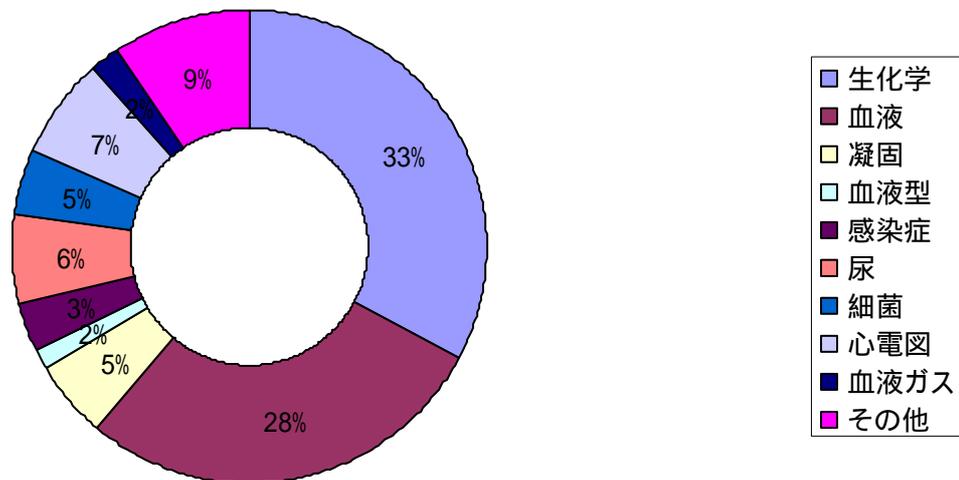
検査に要する時間は、10分から60分程度で依頼された項目により異なります。

緊急検査の種類ですが、生化学検査、血液検査、心電図検査、細菌培養検査、尿検査、輸血検査などで数十項目に対応しています。必要があれば、担当者呼び出し追加検査も実施しています。

それでは、実際の業務量をご紹介します。

以下の統計は、平成19年の5月の宿日直合わせた業務量です。一日平均77件余りでした。内容は以下の図を参考にしてください。

緊急検査内容



生化学検査 33%

肝機能、腎機能検査項目など

GOT、GPT、クレアチニン、尿素窒素、Na、K、CL、LDH、ALP、総BIL、総蛋白、血糖、GTP、アミラーゼ、総コレステロール、CRP など



血液検査 28%

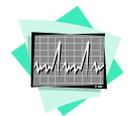
検査項目

白血球、赤血球、血色素量、ヘマトクリットなど



心電図検査 7%

救急治療室や病棟に出向き検査します。
状況にもよりますが、必要時間は10分前後です。



尿検査 6%

蛋白、糖、潜血反応、ウロビリノーゲン顕微鏡検査（沈渣）など

細菌検査 5%

インフルエンザ抗原検査、血液培養、髄膜炎迅速検査
肺炎球菌抗原検査など



凝固検査 5%

プロトロンビン時間、活性化部分トロンボプラスチン時間
フィブリーゲン値、Dダイマーなど

他にも、次のような検査があり、それぞれ対応できるよう体制を整えています。

輸血検査



緊急時に備え、血液型に応じた数種類の血液製剤を準備しています。不足が生じた場合は、最も早い場合で30分、通常の場合60分程度で血液センター（前橋市）より輸送してもらい、指定された時間に間に合わせます。

患者さんによっては、何らかの原因で同じ血液型でも、輸血副作用を発生することのあることから、患者さんの血液を様々な検査法で調べ、患者さんに最も適している血液製剤を用意します。

血液製剤には、次のものがあり、医師の指示により、目的によって使い分けます。

- ・赤血球濃厚液 LR「日赤」・新鮮凍結血漿 LR「日赤」・濃厚血小板「日赤」

心臓カテーテル検査



心筋梗塞などでは、一刻も早い検査治療が望まれるため、心臓カテーテル検査室にて、臨床検査技師もチーム医療の一員として参加しています。

細菌検査

食中毒の原因となる腸管出血性大腸菌（O157）や、血液の中に細菌が入り込み重い疾患となる敗血症など、早期の治療を必要とする場合は検査結果の報告が急がれます。

そのため、担当者による検査が時間を問わず行われています。



緊急検査室全景

部屋の位置は、利用しやすいよう、救急治療室に近いところに設置してあります。



検査に関することは何でもご相談ください

「四つ葉のクローバー」が当院のホームページに公開されていますので、ご参照ください。

ホームページアドレス <http://kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

検査結果は担当医へお尋ねください

編集担当 立崎、竹内、小保方